

[課程一2]

審査の結果の要旨

氏名 寺尾 良康

本研究は脊椎破格の中で最も頻度の高い破格の一つであり、その誤認識は臨床上重大なエラーを招くリスク要因でもある脊椎移行破格についてCTデータを用いた画像的研究を試みたものであり、下記の結果を得ている。

1. 現在までに発表されている TLTV 分類の問題点を示し、それらを解決させたより具体的で詳細な 8 パターンからなる TLTV 分類を提案した。我々の観察集団ではそのうち 3 パターンは確認されず、4 つの肋骨成分(通常肋骨、short rib type、lumbar rib type、通常横突起)に関する連続的スペクトラムを考慮させる発生的に興味深い知見を示した。
2. これまで不足している胸腰部移行破格の疫学的研究を施行し、腰仙移行破格と同時に調査した。いずれの破格も 20%程度の比較的高い蔓延率が観察された。2ヶ所の移行破格の出現レベル、2ヶ所の移行破格の相関性、2ヶ所のシフトの同一方向性、移行破格の形状タイプと出現レベルの傾向性、等の複数の新知見も示した。
3. これまでの3報告間で不一致があった、最も安定したランドマークとされる腸腰靭帯付着レベルに関して、詳細研究を施行し、いずれとも異なる知見を示した。LSTV の存在に関わらず、最下位の腰椎横突起ないし最下位の可動性椎間関節における上位の脊椎の横突起に付着する傾向が強くはあるが、絶対的な規則性は見られなかった。正確な脊椎レベル診断には全脊椎画像の必要性和カウント方法を統一させることが必要であることを示唆した。

以上、本論文での知識を広く普及させることは、脊椎移行破格の誤認識による重大な医療事故を予防できることが期待できるものであり、学位の授与に値するものと考えられる。